

超音波検査室の「精度認定制度」取得への取り組みとその後の効果

◎前田 恵里¹⁾、片山 知子¹⁾、土屋 まさみ¹⁾、朝蔭 さとみ¹⁾、玉置 佐弥¹⁾、戸塚 愛実¹⁾、杉浦 菜々瀬¹⁾、大沼 佑稀乃¹⁾
岡崎市民病院¹⁾

【はじめに】当院は680床を有する地域の基幹病院で、超音波検査室は臨床検査技師・放射線診療技師・臨床工学士（有：臨床検査技師資格）の3職種で構成している。当室は2022年度から開始された日本超音波検査学会(JSS)の「精度認定制度」で腹部、心臓、血管、体表の4領域A判定を取得した。その取り組みとその後の効果について報告する。

【目的】超音波検査室における精度認定取得を通して検査の質の向上を目指す。

【評価内容と方法】制度開始前より室全体の意識統一を図り、初年度での取得を目標に認定基準の要件を満たすべく3年連続でコントロールサーベイでA評価を得た。また教育プログラムへの参加として①JSSのeラーニング参加②JSSの学術集会等への参加と学会発表・論文投稿③認定超音波検査士取得を積極的に行った。本格的な取り組み開始として精度認定取得のためのワーキンググループ(WG)を立ち上げて各領域の責任者を決め、タイムスケジュールを組み、必要文書の作成を通常業務と並行して実施できるように調整し必要事項を実施した。

【結果】規程に則った取り組みとして技師間差評価のためのマニュアルを作成し遵守することは経験年数による計測値のばらつきを是正するのに有用であった。院内の感染対策に準じ作成した感染対策マニュアルは、直面する感染症に対し即時対応可能であり、コロナ禍の検査において有用であった。また新人教育マニュアルの見直しは初級者指導の指導者よるばらつきの是正に役立った。

【考察と結語】「精度認定制度」取得は精度管理できている施設の証として自信となり、室内個人のモチベーションが上がり業務への責任感が増す要因になったと考える。院内へは超音波検査室の精度管理として臨床医に「安心・安全な超音波検査の提供」が担保できていることを周知でき、学生見学の際のアピールポイントの一つになったと思われる。院内外での広報活動の一つとして寄与したと考える。今後も地域の基幹病院の超音波検査室として責任と自信をもって超音波検査の提供をし続けたいと考える。 超音波検査室 0564-21-8111